

船舶事故等調査報告書

平成24年8月30日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012横第70号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成24年1月9日 10時50分ごろ	
発生場所	東京都大島町岡田港 岡田港防波堤灯台から真方位180° 320m付近 (概位 北緯34° 47.4' 東経139° 23.3')	
事故等調査の経過	平成24年5月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等</p> <p>A 押船 第十八^{とどろき}轟丸、99トン 136491、株式会社轟組</p> <p>B クレーン台船^{せいき} 世紀21号、約2,729トン なし、株式会社轟組</p>	
乗組員等に関する情報	A 船長、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A なし B 右舷船底外板凹損	
事故等の経過	<p>A船は、船長ほか7人が乗り組み、B船の船尾凹部にA船の船首を結合して押船列（以下「A船押船列」という。）とし、岡田港で積荷の消波ブロックの据え付け作業中、ローリングとうねりが重なり、平成24年1月9日10時50分ごろB船の右舷船底付近に衝撃を受けた。</p> <p>A船及びB船は、漏油及び浸水等の異常がなかったので作業を続けた。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 2</p> <p>海象：潮汐 低潮時、波高 約1m</p>	
その他の事項	<p>A船の喫水は、船首約1.9m、船尾約3.2mであり、B船の喫水は、船首約2.0m、船尾約2.0mであった。</p> <p>船長は、本事故時、初めて岡田港に入港した。</p> <p>船長は、揚荷役を行う乗組員に対し、消波ブロックを片取りしないように指示していた。</p> <p>船長は、揚荷によるローリングとうねりが重なって船底が海底に接触したものと思った。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船押船列は、岡田港において低潮時に消波ブロックの据え付け作業中、揚荷によるローリングとうねりが重なったことから、B船が浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	本事故は、A船押船列が、岡田港において低潮時に消波ブロックの据え付け作業中、揚荷によるローリングとうねりが重なったため、B船が浅所	

	に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 余裕水深がない場所で消波ブロックの据え付け作業を行う際は、低潮時まで可能な限り積荷を少なくすること。